

令和3年 7 月 8 日(木曜日)掲載

この記事・写真等は東海愛知新聞社の許諾を得て転載しています。

高校生にも意見求める

岡崎市長 太陽の城跡地活用方法

県立岡崎商業高校で六日、岡崎市の中根康一ネズ科三年生十九人が



太陽の城跡地(明大寺本町)の活用方法に関する意見交換を行った。

岡崎の歴史や観光ビジネスなどを研究する同科三年生の課題研究「岡崎学」の中で実施。中根市長は「フォーマ」とカシユアル、インドアとアウトドア、日常と非日常をつなぎ目な「土間」のよつな空間を岡崎の一等地につくりたい。税金を使うものだからみんなが日常的に使うものにしてほしいと伝えた。

生徒に意見を求める中根市長(左) 県立岡崎商業高校で

複数の生徒から「アスレチックパークと休憩できる場所」「キャンプができる場所」「キッチンカーを呼ぶことができる場所」などが提案された。また、「川の水を使った水族館」といった土地の特色を生かしたアイデアや、「勉強できるスペース」といった意見も聞かれた。

巡回展やHPで公表 市企画課によると、生徒の意見は四日に開かれた「まちづくりほつとミーティング」での意見と共に、十四日から北部市民交流センター(なごみん)などで開催する巡回パネル展「みんなで考えよう」とする太陽の城跡地」で公表。市ホームページでも公開予定という。

太陽の城跡地の活用についてはPFI(民間資金活用による社会資本整備)でのコンベシヨン施設などの整備・運営が計画され、昨年一月に優先交渉権者が決まった。だが十月の市長選で同事業を「やめる」とした中根市長が当選。同十二月に市が優先交渉権者に中止協議を申し入れた。しかし「市民の声を聞きたい」として市は今年三月に事業の一

時凍結を申し入れ、十二月までに事業の方向性を決めるため、市民の意見を集めている。(横田沙貴)